

感染30代以下が6割

年末年始の1週間

新型コロナウイルスの国内感染者は9日、新たに8249人が確認された。2日連続で8千人を超えたのは昨年9月11日以来、約4カ月ぶり。全国的に感染拡大が進む中、年をまたいだ1週間の感染者の過半数が30代以下だった。コロナ特措法に基づく「まん延防止等重点措置」が9日から適用された3県では、広島で過去最多の619人が確認された。

▼2面||オミクロン株は、23面||嘆く飲食店

国内2日連続8000人超

広島県以外では、沖縄県認。前日の1759人に次いで1533人の感染を確
いて過去2番目に多く、3

日連続で1千人を超えた。一部の医療機関では病床使用率の上昇などの影響で、外来診療や入院制限が始まっている。また、米軍からは過去最多となる429人の感染の報告があったという。山口県は過去4番目に多い152人で、5日連続で100人を超えた。

一方、年末年始の感染者を年代別みると、若年層が多いことが分かった。厚生労働省によると、今月4日までの1週間の新規感染

者の中年齢が公表された3968人の内訳は、20代が1054人、30代が740人、10代が345人、0～9歳が353人。30代以下で全体の62・8%を占めた。60代以上は513人で全体の12・9%だった。

9日の新規感染者が1223人だった東京都も同じような傾向だ。年代別では20代が最多で504人。30代以下は計879人で全体の71・8%に上った。東京の新規感染者が1千人を超えたのは2日連続。この日までの1週間平均は664・9人で、前週の10倍超に急増した。大阪府の9日の新規感染者は880人で2日続けて800人を超えたほか、80代男性1人の死が確認された。

変異株「オミクロン株」の市中感染の判明も相次いでいる。青森県は9日、すでに感染が確認されていた60代男性について、同県内で初となる市中感染だと発表した。